



日本の労働生産性
先進7か国で最低
日本型雇用 転換へ
「経済財政運営と
改革の基本方針(6/18)

日本経済がデジタル化などで世界に後れを取って経済の低迷を招いていると分析、そこへコロナ禍も重なり日本人

の働き方などを抜本的に見直す動きが出ています。

まず今までの「終身雇用制」を脱却新たな雇用を作り出そうと人材育成にもつなげる「リカレント教育」(社会人が働きながら学ぶ)を強化するそうです。(6・/19 読売朝刊スキャナー)

軸は社会人の「学び直し」、副業、転職、起業促進です。五輪の無観客か否かが焦点です。やはり観客なしではアスリート自身を鼓舞するのは難しいのでしょうか。これからの世の中を生きていく子供たちは安定を求めず常に向上心を持ち続けてほしいものです。

ドラゴンへの階段 第27回

「エッセイ版」心のJ-POP洋楽番外編
いとしのエリー(サザンオールスターズ)

今回は日本人の半数以上がきここと存じてであろうこの名曲にあやかっ、全くの私事をお話しさせていただきたく、恐縮ですが、お付き合いいただけましたら幸いです。

先日この曲のサックス演奏をリクエストいただきその演奏のために準備をしていた時の事です。とても有名な曲ですのもちろんメロディーは頭に入っていますし、歌詞も有名なくだりは知っていました。あまりに有名過ぎると言いますか、とにかくどういいう訳かこの曲をサックスで演奏したことはありませんでした。これは良い機会をいただいた、ということ。サックスでもさらっておこう、と独りで吹いてみたら、あれ？いつもと違う感覚です。こんなことをここで書きますと「何をいまさら」と言われてしまうかも知れませんが、その時、頭の中で歌詞を歌いながら、サックスを吹いている自分に気が付きました。

「泣かしたこともある
冷たくしてもなお」



この「ドラゴンへの階段」というチャレンジを始めてから、自分の練習時間のほとんどを歌やピアノに割いてきましたが、そのせいなのか。またこの変化が自分のサックス演奏にとって良いものなのか、それさえもまだわかりませんが、私にとっては新しい感覚でした。また、私は歌を唄いながら己の表現者としての未熟さゆえに涙がこみあげてしまうことが多々あるのですが(笑)、サックスを吹きながら同じような感情が湧き上がって来る感覚を初めて覚えました。さらに、不思議に感じながら吹き続けるうちに、その歌詞さえも頭の中から消え去り、唄っているときの感情だけが胸の中に熱く留まっている状態に。すっかり唄い慣れ沁みついてしまった歌を唄っている時に、歌詞を考えながらというよりは、情景だけが浮かび、体が勝手に唄っている状態になる時があります。それと同じでした。

こんな経験をして、その後いつもそういう状態でサックスを演奏している訳ではありませんが、これまでと違う感覚が時折、訪れるようになりました。その度に、歌、歌詞というものが音楽の中で演奏者に、そして聴き手の方々にどのように作用しているのか、考えています。

あと、先ほども申し上げましたように、この企画をはじめから歌やピアノの練習ばかりに没頭して居りましたが、今一度、サックスにも立ち返らなくちゃ、という時期に入った様です。ということで、今回紹介させていただいた動画の演奏は、サックスによるものにさせていただきました。お楽しみいただけましたら幸いです。

サックス演奏による「いとしのエリー」を動画サイト「YouTube」にて視聴いただけます。「QRコード」を読み取るか、「YouTube」にて「佐藤洋祐 ドラゴンへの階段」と検索して見つけていただけます。私が動画を載せている「フォーカスプロジェクト」は、千葉県のある地域おこしを目的とした動画チャンネルです。

他のサックス奏者の方々が演奏中にどんなことを頭で考えながらサックスを吹いておられるのか、良くは存じ上げませんが、私の場合はいつも「ドレミ」のような階名(かいめい)を歌いながら吹いていることが常です。すでにある楽譜や即興演奏など、どんな複雑だったか速かったり、難しいパッセージであっても階名を頭の中で唄いながら吹いているのですが、それが今、この曲を吹こうとしたら、無意識に頭の中で歌詞を唄っている自分に気が付いた、という次第です。

撮影 菊池輝雄

佐藤 洋祐(サトウ ヨウスケ)
ジャズミュージシャン。サックス奏者としてグラミー賞を2度受賞。
2015年末より佐倉市在住。
2019年よりシンガーとしても活動を開始。



いとしのエリー
『サザンオールスターズ』